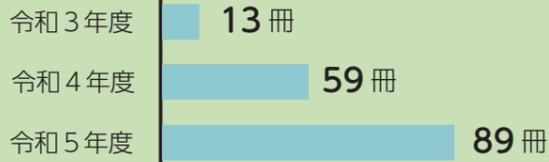




「読書活動優秀実践校 文部科学大臣賞」の表彰状を掲げる皆さん。左から市長、教育長、吉村朱織さん、松本恒明校長、船越虹心さん、有働尚子先生、荒木あけみさん

### 玉陵中学校図書室利用状況

#### ● 1人当たりの年間貸し出し数



#### ● 蔵書数

令和3年度	9,799冊	※学校図書蔵書標準の9,040冊よりはるかに多くを蔵書
令和4年度	10,064冊	
令和5年度	10,459冊	

## 特集 玉陵中学校図書活動

# 本に触れる、心を耕す。



### 年間1人13冊だけ。3年前の実態

令和3年度の本の1人当たりの年間貸し出し冊数は13冊。玉陵中学校では読書の推進が学校の大きな課題の1つとされ、そのことは保護者アンケートなどの結果からもうかがえるものでした。

「これ以上貸し出し冊数を減少させてはいけない」と、図書主任と学習委員会が中心となり、貸し出し状況を細か

### また行きたくなる図書室

くチェック。「行列のできる図書室」「情報発信をする図書室」「身近な図書室」の3つの目標を掲げ、学校全体で取り組みました。

図書室周辺を含め校内各所に「旬の本」「おすすめの本」を紹介するポスターを掲示。たくさん本を借りるとしおりがもらえる「しおりまつり」や、本を読むと正解が分かる「クイズ」など季節ごとにイベントを行い、本に親しみやすい

### 地域とつくる本に触れる機会

授業では並行読書や調べ学習での本の活用を積極的に行

「きょう何冊借りた?」「新しい本出とったばい!」「このしおりもらえた!」と歓声が飛び交う玉陵中学校の図書室。こんななにぎやかな図書室があるなんて…と驚くくらい、図書室中に生徒の楽しそうな声やおしゃれな音楽が広がっていました。今号では、読書活動に力を入れる玉陵中学校の取り組みをレポートします。

### 人と本がつながる玉陵中学校図書館

玉陵中学校は「令和6年度子どもの読書活動優秀実践校」として、文部科学大臣表彰を受賞しました。この表彰は、子どもの読書活動について「特色ある優れた実践を行っている学校」に対し、平成14年から行われているもの。本年度は全国で129校が表彰され、うち県内では玉陵中学校を含む3校が表彰されました。



玉陵中学校では、生徒自らが読書の推進についてアイ

にまで伸び、当初の約8倍に大幅に増加しました。

い、玉名市立図書館での職場体験も実施。PTAと地域住民のボランティアによる読み聞かせにも力を入れ、毎月行われています。地域学校協働活動推進員の荒木あけみさんが、読み聞かせだけでなく図書室の設営も協力。荒木さんは「これまで本をたくさん読む生徒は限られていました。読み聞かせを続け、本に触れる機会を作ってきましたが、なかなか効果は現れず。有働先生や学習委員会の生徒による新しい工夫に、読書活動を推進する効果があったと思います」と話し、地域ぐるみで生徒の読書環境の改善に努めました。

### 読書の種が強みとなるその日まで

学校全体、地域を交えての読書の推進に取り組んだ結果、本に親しむ生徒が多く見受けられるようになりました。令和5年度には、本の1人当たりの年間貸し出し冊数は89冊

受賞を受けて、学習委員長吉村朱織さん(3年生)は「とてもうれしい。図書室がにぎわっているのもすごくいいなと思う」と喜びを表し、副委員長船越虹心さん(3年生)は「みんながこんなに借りていたことにびっくりしました」と話しました。松本恒明校長先生は「玉陵中は小学校から読み聞かせを続け、本に触れる種をまいているからこそ、中学生につながっていると思います。子どもたちがいるんな本に触れるきっかけになる図書室であってほしいです。読書の効果はすぐには見ませんが、読書をする子はいろんな見方ができるようになると思います。大人になつたときに、子どものころにたくさん読書をしたことが、それぞれの強みになっていくのではないかと、そうであってほしいと願っています」と読書推進への思いを語りました。

本に触れる、心を耕す。

### その5 楽しいイベントもりだくさん

本を読むきっかけとなるイベントを不定期に開催。図書室の本は1日2冊貸し出し可能ですが、雨の日は特別に5冊。雨の日もイベント並みに多くの生徒が訪れます。



エニタイム ファイブブックス「Anytime 5 books カード」一定の期間に25冊以上借りると、1年間は毎日5冊借りられるカードがもらえる。



「わくわくクジあてまSHOW!」一定数本を借りると福引ができて、当たった番号のしおりがもらえる。しおりのデザインは、好きな芸能人など生徒から希望を募っている。



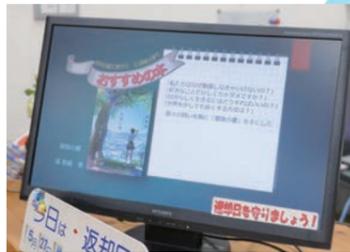
「クイズにチャレンジ!」6冊の本からクイズを出題。読むと正解が分かり、6問中3問正解で景品がもらえる。生徒が普段手に取らないような本からも出題されている。



「ガラポン抽選会」本を5冊借りるごとにガチャガチャに挑戦でき、しおりなどの景品がもらえる。

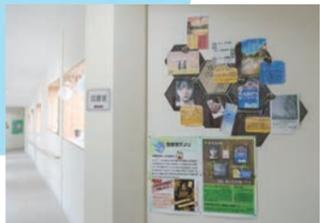
### その6 おすすめや人気が一目瞭然

おすすめの本、旬の本、人気の本が一目で分かるよう、ポスターやモニターで掲示されています。



### その1 本を読みたくなる掲示物

生徒の足が図書室に向くよう、廊下各所にずらりと掲示されている図書関連の掲示物。有働先生(図書担当)が「読まなくても表紙を知っているだけで『自分には知っている本があるんだ』という経験をさせたい」と、多くの本を紹介しています。



### その2 おしゃれな音楽



カフェのような雰囲気にするため、音楽を流しています。設置しているスマートフォンから生徒が好きな音楽を選べるとのこと。

### その3 貸し出し返却がラク



本のバーコードを読み取るだけで手続き完了。貸し出しの受け付けは学習委員の仕事のため、この「ピッ」と読み取る作業がやりたくて学習委員になる生徒も。

### その4 読みたい本が図書室に並ぶ



生徒の希望図書を常に受け付けています。漫画、古い本、学校にふさわしくない本以外はできる限り入荷。生徒は本が届くのを心待ちにしています。

玉陵中学校の図書室に人が集まる理由

9

ふじかわ 藤川うたこさん(3年生)



小さいころから本が好きで、去年も一昨年も多読賞を受賞しました。図書室のイベントの中で一番好きなのが「Anytime 5 books カード」です。たくさん本を借りたいのでうれしいです。図書室は、新しい本を積極的に入れてくれるのがいいなと思います。読書は面白いから読んでいるのが一番ですが、国語の文章問題は読書をしていると解きやすいと感じています。

いしはらあいか 石原愛華さん(3年生)



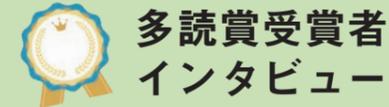
本は、読むと落ち着くのが好きです。玉陵中の図書室は、にぎやかで、読みたい本はすぐに見つけられるくらい充実しています。イベントも楽しいし、イベントがあることで本もたくさん読めるからうれしいです。過去のイベントの景品で、好きな画像を選んで缶バッジを作ってもらったのがうれしかったです。

あらきりさ 荒木璃咲さん(2年生)



小さいころから本が好きで、去年は年間500冊以上借りました。横島図書館や市民図書館にも通っていますが、市民図書館の本は全部読んだと思うくらい読みました。玉陵中の図書室は、本の種類が豊富で面白いです。私が知らない本もたくさんあります。去年は小学生への読み聞かせにチャレンジしたら、とっても楽しかったです。

### 読書・図書室のここが好き!



1年に2回、たくさん本を読んだ生徒が表彰される多読賞。過去に多読賞を受賞したことのある生徒に話を聞きました。

# 本に触れる、心を耕す。



## 協働で読書の芽を育てる人たち

①読み聞かせをする荒木さん ②真剣に話を聞く1年2組の皆さん ③「読書活動優秀実践校 文部科学大臣賞」の表彰状を掲げる④荒木さん⑤城戸さん⑥茂田さん。校長先生は「この受賞は読み聞かせボランティアの皆さんのおかげ」と話します。

地域と二緒に作る読み聞かせの会 玉陵中学校では令和元年度から読み聞かせを開始。月に一度、朝の授業が始まる前約10分間を使って、保護者と「たまよりひめの会」、地域住民で読み聞かせを行います。「たまよりひめの会」は城戸美穂子さんと荒木あけみさんが中心となって平成19年に立ち上げた読み聞かせボランティア。当時保護者だった2人が、先生に「やりませんか」と声を掛けられ、地域の人が20人ほど募り、それが会の発足につながりました。最初は勉強会から始め、県のボランティア育成や読み聞かせの研修に参加。荒木さんは現在、地域学校協働活動推進員としても玉陵中学校を地域から支え「元々シャイな性格で、読み聞かせでは緊張で手が震え声が出ないことも。でも、生徒の中には人前に出るのが苦手な子もいるので、そういう

本を読む、心の畑を創る 「本は『心の栄養』とよく言うけれど『心を耕すもの』だと思っていきます」と話すのは荒木さん。読み聞かせのときに読む本は、どんなに短い本でも1冊だけ。城戸さんは「余韻が大切で、どんな本にも何

子どもたちに何思う 子どもたちの読書環境を整えるために尽力する先生、協働するボランティアと保護者、そしてそれを素直に受け入れることができる玉陵中学校の生徒たち。そこには「本を読むこと」を通じて、深くつながる地域の姿がありました。本は子どもたちの土壌となる。子ども時代に、さまざまな登場人物に共感し、さまざまな世界に入り込み、まるで自分の体験かのように感じることは、子どもたちの生き方どこかで影響を与え、子どもたちの強みになるのではないのでしょうか。地域と学校が一緒にまいた「本を読む」という種がいつか大きな花や大きな木となりますように。

## その8 内容が気になる本のポップ

興味を引くよう、本のポップを工夫。ただ置かれているだけでは手に取らない本でも、思わず開いてみたくなります。生徒が本を探しやすいよう「ディズニー」などでまとめたコーナーも設置されていました。



令和4年度から着任した有働尚子先生。生徒に寄り添い、数々のイベントを手掛けながら、掲示物も豊富に作成。新刊図書や生徒からの希望図書は、届いたらその日のうちに借りられるようブックカバーを付け、陳列させるとのこと。「生徒が今読みたいと思っている句を逃したくない」と常に心掛けています。「わざと本を倒したり、棚の上に1冊だけ置いたりしています。生徒が気付いて棚に戻してくれるときに、ふと表紙を眺めてくれるだけでもいいんです」と、あの手この手で生徒が本に触れる機会を作っています。「読んでみて面白くないと思ったら読むのをやめていい」

ながたやすひと 永田恭一さん(3年生)



本を読むようになったきっかけは、国語が苦手で「読書をする国語が伸びる」と聞いたからです。短編小説が好きで、恋愛のジャンルをよく読みます。実際に本を読むようになって国語のテストのときに、文章問題を読む時間がかからなくなり、問題が最後まで解けるようになりました。

## その7 ずっと混ぜていたくなるモイストポップ



地域学校協働活動推進員の荒木あけみさんが設置。校内に咲く花を使って制作しました。生徒が、図書室でゆっくり楽しめるきっかけになればと思って始めたそうです。

※モイストポップリ…半乾燥のハーブや花などを天然塩で熟成させて香りを楽しむもの。

## その9 図書室の先生が話しやすい



と生徒には伝えていきます。合わない本は読まなくていい。「この本面白くなかったな」も良い感想、良い経験なんですよ。大人になって同じ本を読んでみると面白いと感じることもあります」と話す有働先生。本を読む生徒を丸ごと受け入れる先生の周りには、いつもたくさん生徒が集まっています。

あべまりあ 阿部茉莉亜さん(3年生)



昨年は2回多読賞を受賞しました。本はもともと好きで、妹も一緒によく読んでいます。図書室に来る人たちがみんな楽しそうでいいなと感じています。

本に触れる、  
心を耕す。

# 図書館 新刊案内

図書館には毎月新しい本が並びます。



出版：高橋書店  
監修：今泉忠明

「ダンゴウオの擬態はバレバレ」…。進化の結果、なぜかちょっと残念な感じになってしまった生き物たちを紹介する。電子付録にアクセスできる二次元コード付き。

所蔵：市民・岱・横・天



出版：小学館  
著者：御木本あかり

学生・速水翔太は、68歳の女性3人のシェアハウスでアルバイトをしている。そこに新たな同居人がくるが、彼女は認知症の初期だった。さらに建物の売却の危機が…。

所蔵：市民・岱・横・天



出版：アリス館  
著者：川之上英子、川之上健

今日の授業参観で、げんきくんはおかあさんについての作文を読むことに。でも、おかあさんはまだ学校に来ていません。おかあさんは間に合うでしょうか？

所蔵：市民・岱・横・天



ホームページでは他の新刊も紹介しています

## 問い合わせ・休館日

- 市民図書館 (☎ 75・1315)  
(1日、4日、8日、15日、22日、29日)
- 岱明図書館 (☎ 57・0045)  
(1日、8日、15日、22日、25日、29日)
- 横島図書館 (☎ 84・6111)  
(5日、12日、19日、24日、26日)
- 天水図書館 (☎ 82・3600)  
(3日、10日、17日、22日、24日、31日)



出版：明日香出版社  
編著：関口真理

人口大国で、「グローバルサウス」や世界の安全保障のキープレイヤーに至ったインド。その経済や政治・外交、社会と文化などについて、マンガを交えて解説する。

所蔵：市民・岱・横・天



出版：中央公論新社  
著者：辻堂ゆめ

昼と夜で、一つの体を二人で共有する茜と咲子。親友のような関係を築いていたが、「昼」の終わりによって予想だにしない「夜」の真実が顔を覗かせはじめ…。

所蔵：市民・岱・横・天



出版：朝日新聞出版  
監修：ハツカズ・イク

「転職」の基本をわかりやすく解説。「退職後も繋がり続ける」を前提に退職することで、築き上げてきた人間関係や信頼関係をキャリア形成に役立てる考え方も紹介。

所蔵：市民・岱・横・天



出版：講談社  
作・絵：シゲタ サヤカ

町で一番人気のレストラン。9人のコックは今日も大忙し。あまりの忙しさに、ひとりのコックが弟を連れてきました。弟コックはあっという間に料理を覚えますが…。

所蔵：市民・岱・横・天

## 「みんなでつくる 意味が分かる とゾクゾクする超短編小説 54字の物語 参」

出版：PHP 研究所  
著者：氏田雄介

短い話だけど面白いし、学年問わず読める作品です。

よしむらあかり  
(吉村朱織さん 3年生)



## 「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」

出版：スターツ出版文庫  
著者：汐見夏衛

映画化されて有名になった本。特攻隊が登場する恋愛もので、昨年から読み始めて何度も読んでいます。

ふなごしにこ  
(船越虹心さん 3年生)

# あなたもいっしょに読書の種を心にまきませんか 学習委員おすすめの本

玉陵中学校で図書活動の中心となる学習委員会の皆さんにおすすめの本を聞きました。

## 「はずかしかったら やってみて!!」

出版：主婦の友社

文・絵：オーレリー・シアン・ショウ・シーヌ  
訳：垣内磯子

## 「君が落とした青空」

出版：スターツ出版文庫

著者：櫻いいよ

主人公がとある1日を7回ループする話で、7回目が特に印象に残っています。面白いです。

まつもとりんご  
(松本倫呼さん 1年生)



時間がないときでも読めるのでおすすめです。何回も何回も読みました。この本の絵が好きです。  
たのうえゆきの  
(田上千乃さん 1年生)

## 「きみを変える50の名言 2期」

出版：汐文社

文：佐久間博 絵：ふすい

芸能人・スポーツ選手など有名人の名言がたくさん載っています。中でも、松井秀喜さんの名言は野球部に所属している自分のモチベーションにつながりました。

いのうえそうわ  
(井上宗環さん 2年生)



## 「死体格差 異状死 17万人の衝撃」

出版：新潮社

著者：山田敏弘

一番最初に借りた本で、5回連続で借りました。まずタイトルに衝撃を受け、外国ではなく国内で起きているということに読んでびっくり。

いのうえゆうしん  
(井上湧新さん 2年生)

